

都市再生整備計画 事後評価シート
北陸新幹線上越妙高駅周辺地区(第二期)

平成29年3月

新潟県上越市

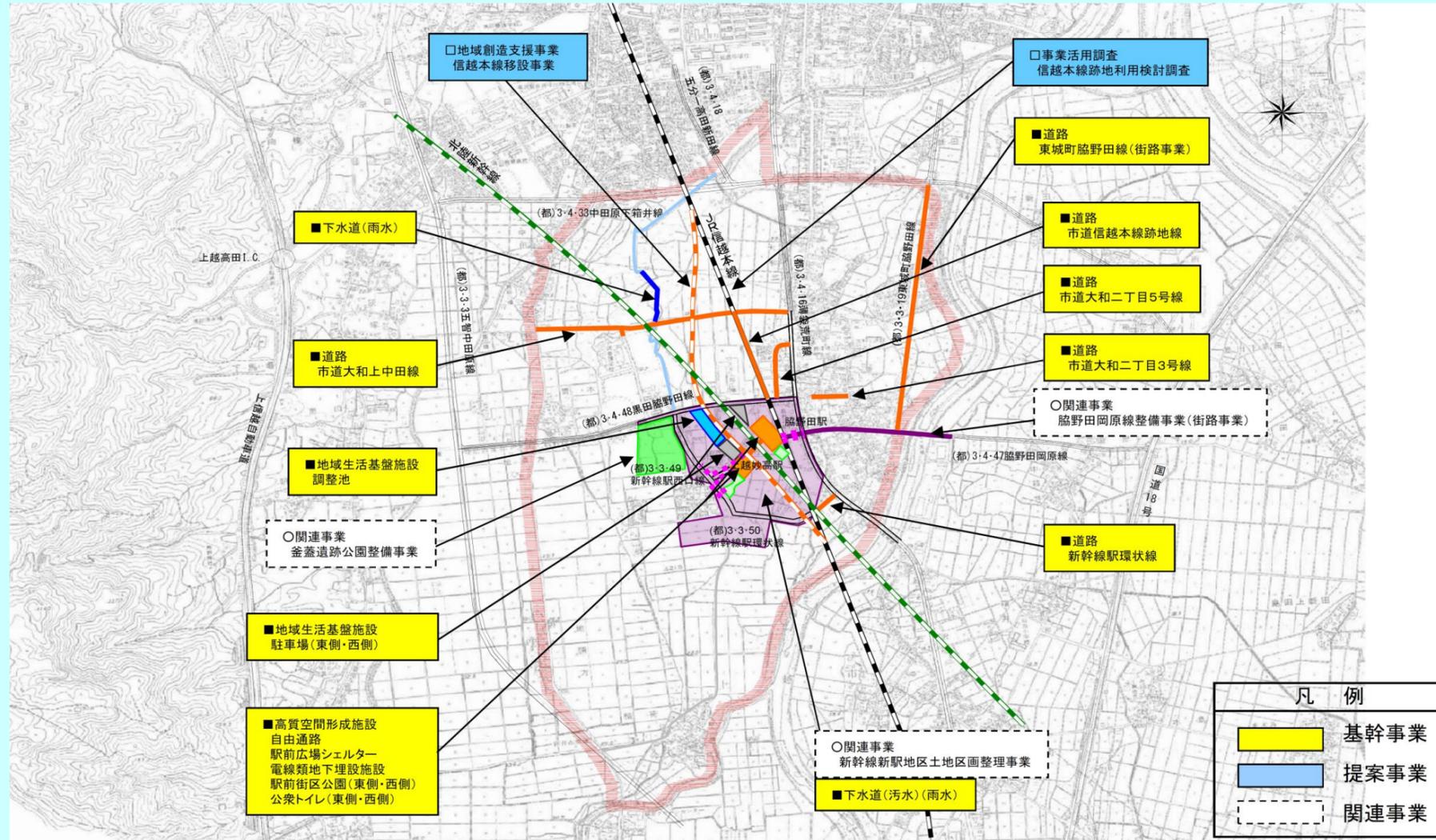
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	上越市		地区名	北陸新幹線上越妙高駅周辺地区		面積	376ha			
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	8,687.4	国費率	0.350				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道大和上中田線、市道大和二丁目5号線、市道大和二丁目3号線、新幹線駅環状線、東城町脇野田線)、下水道(汚水:高田南部処理地区、雨水:脇野田第二・第三排水区、脇野田第三排水区(排水路))、地域生活基盤施設(調整池、駐車場(東側・西側)、自由通路、駅前広場シェルター、電線類地下埋設施設、駅前街区公園(東側・西側))										
		提案事業	信越本線移設事業、信越本線跡地利用検討調査										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名										
		提案事業	削除/追加の理由										
	新たに追加した事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		基幹事業	道路:市道信越本線跡地線				鉄道跡地の有効利用を図るため追加				影響なし		
		基幹事業	高質空間形成施設:公衆トイレ				駅利用者の利便施設として追加				影響なし		
	交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	平成 年度～平成 年度										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1		駅前広場整備の満足度	%	25.3	H23	60.0	H28		34.1	△	あり なし ●	駅前広場は整備されたが、駅周辺では市街化が進行中であり、魅力のある拠点施設が立地していないことから、満足度の向上につながらなかったと考えられる。	平成33年度内
指標2		駅へのアクセス性(満足度)	%	51.7	H23	62.0	H28		70.7	○	あり なし	上越妙高駅の開業にあわせ、駅前広場やアクセス道路が整備されたことにより、駅へのアクセス性の向上が図られ、駅利用者の利便性の向上に寄与したと考えられる。	—
指標3	区域内の世帯数	世帯	1,350	H23	1,400	H28		1,573	○	あり なし	道路や下水道などの都市基盤が整備され、安心・安全な都市環境が形成されたことにより、世帯数の増加につながったと考えられる。	—	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1			—	—								
その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
持続的なまちづくり体制の構築	上越市北陸新幹線建設促進まちづくり協議会 上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● まちづくり協議会については、北陸新幹線の開業により協議会の大きな目標を達成したことから平成27年度末に解散。 土地利用促進協議会については、土地区画整理事業の期間である平成30年度まで市が継続して支援する予定であるが、以降は自立して活動を継続する予定。					

様式2-2 地区の概要

北陸新幹線上越妙高駅周辺地区(第二期)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 交通の利便性を生かした広域的な拠点性を強化する魅力的な都市づくり 目標1: 新しい玄関口にふさわしい地区の特性を活かした高い利便性や快適性を有する質の高い新都市空間を形成する 目標2: 広域的な拠点性を強化し多様な都市機能を誘導する土地利用の促進を図る環境整備を推進する	駅前広場整備の満足度	(%)	25.3	(%)	60.0	(%)	34.1	(%)
	駅へのアクセス性(満足度)	(%)	51.7	(%)	62.0	(%)	70.7	(%)
	区域内の世帯数	世帯	1,350	世帯	1,400	世帯	1,573	世帯



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・上越妙高駅へのアクセス道路や都市施設の整備と合わせて信越本線の移設や土地区画整理事業を一体的に実施したことにより、市の新たな玄関口の形成と広域的な拠点性の強化が図られた。 ・信越本線移設事業、自由通路、駅前広場などの整備により交通結節点としての機能強化が図られた。また、東口の駅前広場や公園には雁木を配置し、上越らしさを活かした環境整備を行った。 ・駅周辺のアクセス道路の整備により、上越妙高駅から高田や直江津などの市街地や直江津港へのアクセス性が向上した。 ・平成27年4月に釜蓋遺跡公園が開園し、あわせて釜蓋遺跡・吹上遺跡などの出土品を展示する上越歴史館『釜蓋遺跡ガイド』がオープンした。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係地権者で組織する「上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会」の活動への支援や企業進出を支援する制度を通じて、交通結節点としての利便性向上や広域的な拠点性を高める機能を集積し、魅力的な都市機能を有する土地利用を図る。 ・駅前公園、自由通路、もてなしドーム、光のテラスを活用した賑わいを創出する市民団体の活動を支援する。 ・釜蓋公園及び『釜蓋遺跡ガイド』において、定期講座を開催するなど、積極的な活用を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート(原案) (添付書類)

(1) 成果の評価		
添付様式1-①	都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無 4
添付様式1-②	都市再生整備計画に記載した事業の実施状況 5
添付様式2-①	都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況 7
添付様式2-②	その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測 8
添付様式2-参考記述	定量的に表現できない定性的な効果発現状況 8
(2) 実施過程の評価		
添付様式3-①	モニタリングの実施状況 9
添付様式3-②	住民参加プロセスの実施状況 9
添付様式3-③	持続的なまちづくり体制の構築状況 9
(3) 効果発現要因の整理		
添付様式4-①	効果発現要因の整理にかかる検討体制 10
添付様式4-②	数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理 10
添付様式4-③	数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理 11
(4) 今後のまちづくり方策の作成		
添付様式5-①	今後のまちづくり方策にかかる検討体制 12
添付様式5-②	まちの課題の変化 12
添付様式5-③	今後のまちづくり方策 13
添付様式5-参考記述	今後のまちづくり方策に関するその他の意見 13
添付様式5-④	目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画 14
添付様式6	当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方 15
添付様式6-参考記述	今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む) 15
(5) 事後評価原案の公表		
添付様式7	事後評価原案の公表 16
(6) 評価委員会の審議		
添付様式8	評価委員会の審議 17

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		駅へのアクセス性(満足度)60%	数値目標を62%へ上方修正	鉄道跡地の有効利用を促進することを目的に、新規道路整備を1路線追加することに伴う、目標値の変更
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道大和上中田線	327.0	L=1100m	371.1	L=1120m	工事完了の精算変更による増額。	影響なし		●
道路	市道大和二丁目5号線	138.0	L= 330m	75.4	L= 320m	事業規模の変更及び工事完了の精算変更による減額。	影響なし		●
道路	市道大和二丁目3号線	86.0	L= 155m	95.2	L= 155m	工事完了の精算変更による減額。	影響なし	●	
道路	新幹線駅環状線	201.0	L= 123m	204.6	L= 105m	交差点部について県事業と合併施工の実施及び工事完了の精算変更による減額。	影響なし	●	
道路	東城町脇野田線	594.0	L= 1140m	574.1	L= 1140m	工事完了の精算変更による減額。	影響なし		●
道路	市道信越本線跡地線	—	なし	88.4	L=423m	鉄道跡地の有効利用を促進するため追加	影響なし		●
下水道	高田南部処理地区	206.0	A=21.5ha	203.9	A=21.5ha	工事完了の精算変更による増額	影響なし		●
下水道	脇野田第二、第三排水区	348.0	A=12.5ha	410.1	A=12.5ha	工事完了の精算変更による増額。	影響なし	●	
下水道	脇野田第三排水区(排水路)	239.0	L= 278m	201.1	L= 278m	工事完了の精算変更による減額。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	調整池	51.0	A=5000㎡	104.6	A=5000㎡	工事完了の精算変更による減額。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	駐車場(東側・西側)	42.0	A=8800㎡	58.1	A=8800㎡	工事完了の精算変更による増額。	影響なし	●	
高質空間形成施設	自由通路	1,882.0	L= 105m	2,045.9	L= 105m	工事完了の精算変更による増額。	影響なし	●	
高質空間形成施設	駅前広場シェルター	896.0	L= 292m	476.0	L= 292m	工事完了の精算変更による減額。	影響なし	●	
高質空間形成施設	電線類地下埋設施設	739.0	L= 1320m	305.0	L= 1099m	供給計画の見直し(東口広場を裏配線)に伴う事業規模の変更及び工事完了の精算変更による減額。	影響なし		●
高質空間形成施設	駅前街区公園(東側・西側)	129.0	A=4300㎡	185.6	A=4300㎡	工事完了の精算変更による増額	影響なし	●	
高質空間形成施設	公衆トイレ	—	なし	67.1	A=116㎡	駅利用者の利便施設として追加	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	信越本線移設事業	3,694.0	L=1800m	3,217.2	L=1800m	軌道内の消雪方法の変更及び工事完了による精算変更による減額。	影響なし	●	
事業活用調査	信越本線跡地利用検討調査	6.0	A=10000㎡	4.0	A=10000㎡	事業完了の精算変更による減額。	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
土地区画整理事業		新幹線新駅地区	8,748	9,102	平成16年度～平成30年度	平成16年度～平成30年度	計画どおり事業完了予定。	
街路事業		脇野田岡原線	3,500	3,500	平成19年度～平成25年度	平成19年度～平成28年度	街路事業は平成28年度で終了するが、別事業として平成29年度以降も継続予定。	
釜蓋遺跡公園整備事業		釜蓋遺跡公園	1,781	1,781	—	平成18年度～平成31年度	用地取得、公園・ガイダンス施設整備は完了。 今後は史跡指定地内の発掘調査を継続する予定。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2	1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	あり	なし		
指標1	駅前広場整備の満足度	%	-	-	25.3	H23	60.0	H28	モニタリング		モニタリング		●
									事後評価	確定見込み ● 34.1	事後評価	△	
指標2	駅へのアクセス性(満足度)	%	-	-	51.7	H23	62.0	H28	モニタリング		モニタリング		○
									事後評価	確定見込み ● 70.7	事後評価	○	
指標3	区域内の世帯数	世帯	-	-	1,350	H23	1,400	H28	モニタリング		モニタリング		○
									事後評価	確定見込み ● 1,573	事後評価	○	
指標4			-	-					モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定見込み	事後評価		
指標5									モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定見込み	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	駅前広場を含む駅周辺の都市基盤は整備されたが、拠点となるような施設が立地していないことから、アンケート調査による地域の拠点性としての評価はまだ低く、数値目標を達成するには至らなかった。	駅前広場整備の拠点性に関する満足度に関しては、都市基盤としての施設整備に加え、周辺の土地利用や街並み形成の進捗に併せた評価が必要であると考えられる。
指標2	駅前広場や上越妙高駅へのアクセス道路の整備により、駅へのアクセス性の向上が図られ、アンケート調査による満足度は70.7%となり、数値目標を達成した。	
指標3	駅前広場や周辺の道路・下水道等の都市基盤の整備が図られ、利便性の向上とあわせ安心・安全な都市環境が形成されたことにより、区域内世帯数は1573世帯まで増加し、数値目標を達成した。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1			-	-			モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
上越市北陸新幹線建設促進まちづくり協議会	予定どおり実施した ●	協議会の活動に必要な財源については市により支援	新幹線建設工事の早期完成を図るとともに、新駅周辺整備等のまちづくりについて協議・検討を行うために地域住民、関係団体等により構成された組織。	北陸新幹線の開業により協議会の大きな目標を達成したことから平成27年度末に解散。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会	予定どおり実施した ●	協議会の活動に必要な財源については市により支援	新幹線新駅周辺の良好なまちなみの形成と土地利用の促進を図ることを目的に関係地権者により構成された組織。	土地区画整理事業の期間である平成30年度まで市からの支援は継続予定であるが、以降は自立して活動を継続する予定。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	道路課、上越妙高駅周辺整備事務所	第1回 平成28年10月21日 第2回 平成28年12月8日	上越市 企画政策部 新幹線・交通政策課 上越妙高駅周辺整備事務所

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2	指標3				
指標名		駅へのアクセス性(満足度)	区域内の世帯数				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道大和上中田線)	◎	北陸新幹線の上越妙高駅の開業にあわせ、駅前広場やアクセス道路の整備がなされたことにより、駅へのアクセス性の向上が図られ、利便性の向上に寄与したと考えられる。	○	駅前広場や周辺の道路・公共下水道等の都市基盤が整備され、利便性の向上とあわせ安心・安全な都市環境が形成されたことにより、人口増＝世帯数の増加につながったと考えられる。		
	道路(市道大和二丁目5号線)	◎		○			
	道路(市道大和二丁目3号線)	◎		○			
	道路(新幹線駅環状線)	◎		○			
	道路(東城町脇野田線)	◎		○			
	道路(市道信越本線跡地線)	◎		○			
	下水道(汚水:高田南部処理地区)	—		◎			
	下水道(雨水:脇野田第二・第三排水区)	—		◎			
	下水道(雨水:脇野田第三排水区(排水路))	—		◎			
	地域生活基盤施設(調整池)	—		◎			
	地域生活基盤施設(駐車場(東側・西側))	○		○			
	高質空間形成施設(自由通路)	○		○			
	高質空間形成施設(駅前広場シェルター)	○		○			
	高質空間形成施設(電線類地下埋設施設)	○		○			
	高質空間形成施設(駅前街区公園(東側・西側))	○		○			
高質空間形成施設(公衆トイレ)	○	○					
提案事業	信越本線移設事業	◎	—				
	信越本線跡地利用検討調査	—	—				
関連事業	土地区画整理事業	○	○				
	街路事業	○	○				
	釜蓋遺跡公園整備事業	—	—				

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	都市基盤が整備されている「交通便利地域」であり、今後も定住人口の増加を図る。
-------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		駅前広場整備の満足度											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道大和上中田線)	—	北陸新幹線上越妙高駅の開業にあわせ、駅前広場や駅へのアクセス道路が整備されたことにより、駅へのアクセス性の向上が図られた。しかし、駅周辺では市街化が進行中であり、魅力のある拠点施設が立地していないことから、満足度の向上につながらなかったと考えられる。	II									
	道路(市道大和二丁目5号線)	—											
	道路(市道大和二丁目3号線)	—											
	道路(新幹線駅環状線)	—											
	道路(東城町脇野田線)	—											
	道路(市道信越本線跡地線)	—											
	下水道(汚水:高田南部処理地区)	—											
	下水道(雨水:脇野田第二・第三排水区)	—											
	下水道(雨水:脇野田第三排水区(排水路))	—											
	地域生活基盤施設(調整池)	—											
	地域生活基盤施設(駐車場(東側・西側))	△											
	高質空間形成施設(自由通路)	△											
	高質空間形成施設(駅前広場シェルター)	△											
	高質空間形成施設(電線類地下埋設施設)	△											
	高質空間形成施設(駅前街区公園(東側・西側))	△											
高質空間形成施設(公衆トイレ)	△												
提案事業	信越本線移設事業	—											
	信越本線跡地利用検討調査	—											
関連事業	土地区画整理事業	△											
	街路事業	—											
	釜蓋遺跡公園整備事業	—											

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	新幹線新駅周辺地区の土地利用方針等に基づき、交通結節点としての利便性向上や広域的な拠点性を高める機能の集積を早期に図ることが必要である。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	道路課、上越妙高駅周辺整備事務所	第1回 平成28年10月21日 第2回 平成28年12月8日	上越市 企画政策部 新幹線・交通政策課 上越妙高駅周辺整備事務所

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
新駅周辺の都市基盤の整備	上越妙高駅へのアクセス道路や都市施設の整備と合わせて信越本線の移設や土地区画整理事業を一体的に実施したことにより、市の新たな玄関口の形成と広域的な拠点性の強化が図られた。	なし	なし
魅力的な都市機能の誘導	信越本線移設事業、自由通路、駅前広場などの整備により交通結節点としての機能強化が図られた。また、東口の駅前広場と公園には雁木を配置し、上越らしさを活かした環境整備を行った。	上越妙高駅周辺地区は、広域的な交通結節点として利便性向上や拠点性を高める都市機能の集積を促進する必要がある。	
新駅周辺整備効果の周辺地域への波及	駅周辺のアクセス道路の整備により、上越妙高駅から高田や直江津などの市街地や直江津港へのアクセス性が向上した。	なし	
遺跡の保全と活用	平成27年4月に釜蓋遺跡公園が開園し、あわせて釜蓋遺跡・吹上遺跡などの出土品を展示する上越歴史館『釜蓋遺跡ガイド』がオープンした。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	市民活動による賑わいの創出	市民団体による駅前公園、自由通路、もてなしドーム、光のテラスを活用した賑わいの創出を図る。	・ワンストップサービスによる市民活動の支援
	「上越市歴史文化基本構想」の実現に向けた取り組み	釜蓋公園及び『釜蓋遺跡ガイダンス』を積極的に活用する。	・「釜蓋遺跡ガイダンス」を活用した定期講座の開催

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	上越妙高駅周辺における利便性向上や拠点性を高める機能の集積	・関係地権者で組織する「上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会」の活動への支援や企業進出を支援する制度を通じて、交通結節点としての利便性向上や広域的な拠点性を高める機能を集積し、魅力的な都市機能を有する土地利用を図る。	・土地利用促進協議会による企業誘致のさらなる推進 ・民間開発事業への支援

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・平成28年11月に実施したアンケート調査結果によれば、駅周辺へ商業施設の立地を望む意見が多い。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
		年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	駅前広場整備の満足度	%	25.3	H23	60.0	H28	確定 ● 見込み	34.1	△	あり ● なし	平成33年度内	住民アンケートにより駅前広場整備に対する満足度を調査し評価値を計測する。	
指標2	駅へのアクセス性(満足度)	%	51.7	H23	62.0	H28	確定 ● 見込み	70.7	○	あり なし			
指標3	区域内の世帯数	世帯	1,350	H23	1,400	H28	確定 ● 見込み	1,573	○	あり なし			
指標4							確定 見込み			あり なし			
指標5							確定 見込み			あり なし			
その他の数値指標1				H			確定 見込み						
その他の数値指標2				H			確定 見込み						
その他の数値指標3				H			確定 見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまくいかなかった点	・駅前広場整備の満足度に関しては、施設整備自体により高い満足度が得られるという想定から、従前値に対して高い目標値を設定したことにより未達成となった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・都市基盤の整備の評価にあたっては、単なる施設整備の評価だけではなく、必要に応じて周辺の土地利用、街並み形成の進捗も想定した上で目標値を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	・駅前広場整備の満足度に関しては、都市基盤としての施設整備に加え、周辺の土地利用や街並み形成の進捗に併せた評価が必要であった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	まちづくり協議会や土地利用促進協議会により、多くの意見を聴取することができ、交通結節点としての利便性の向上や広域的拠点性を高め、魅力のあるまちづくりが進んだ。	まちづくり協議会は、北陸新幹線開業により目的が達成したため、平成27年度末で解散。土地利用促進協議会による継続した活動が必要である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価にあたり、庁内検討会を開催し、各事業担当課で課題を共有し、改善策等について検討がなされた。	
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画の活用予定
未定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載(2週間) 原案の公表	12月15日(木) ～12月28日(水)	12月15日(木) ～12月28日(水)	担当課への電話、 FAX、電子メール等	企画政策部 新幹線・交通政策課 上越妙高駅周辺整備事務所
広報掲載・回覧・個別配布	広報に上越妙高駅周辺整備事務所窓口 及び市のホームページでの原案公表に ついて掲載	12月1日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	上越妙高駅周辺整備事務所で公表 窓口での原案の公表	12月15日(木) ～12月28日(水)	12月15日(木) ～12月28日(水)		

住民の意見	住民からの意見は特になし。(市のホームページへの120回のアクセスと事後評価シートの35件のダウンロードがあった)
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	佐野 可寸志(長岡技術科学大学教授)	平成29年1月18日 (水)	企画政策部 新幹線・交通政策課 上越妙高駅周辺整備事務所	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	岩崎 義一(国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所 調査第二課長) 山内 孝信(新潟県上越地域振興局地域整備部 計画調整課長) 渡部 准次(上越市商工会議所事務局長) 井部 辰男(上越市町内会長連絡協議会)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1及び指標2の意向調査対象者の選定について質問が挙げられたが、対象者の選定の根拠を説明し、委員の理解を得た。 ・指標2の効果発現要因の整理において、指標改善への貢献度について地域生活基盤施設も直接的に貢献したことの意見を挙げられた。再度、貢献度については検討を行うこととなった。 ・指標3の世帯数の推移について質問が挙げられたが、道路や下水道などの都市基盤整備により効果が発現したことを説明し、委員の理解を得た。
	実施過程の評価	・持続的なまちづくり体制の構築状況において、コメントに実施頻度、実施時期、実施結果が記載されていない。
	効果発現要因の整理	・適正に実施されたことが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・特になし。
	フォローアップ	・次回実施する意向調査においては、調査対象範囲を広げて実施するよう検討すること。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	